

【話題提供】秋サケの漁獲と種卵確保の状況について

1 現状

(1) 漁獲の状況（令和2年1月31日現在）※1

	震災前の 平均(A)※2	平成30年度 実績値(B)	令和元年度 実績値(C)	震災前対比 (C/A)%	前年対比 (C/B)%
漁獲尾数(千尾)	8,344	3,507	767	9.2	21.8
漁獲重量(トン)	26,696	10,266	2,284	8.6	22.3
漁獲金額(百万円)	8,827	5,614	1,495	16.9	26.6

※1 沿岸漁獲と河川捕獲の合計値であり、1月31日現在の年度累計値で比較

※2 平成18～22年度の平均値

出所：水産振興課

(2) 種卵確保の状況（令和2年1月31日現在）

単位：千粒

	計画数(A)	採卵数(B)	対比(B/A)%
久慈地区	108,480	69,810	64.4
宮古地区	201,706	89,126	44.2
釜石地区	87,000	21,749	25.0
大船渡地区	65,060	22,971	35.3
合計	462,246	203,656	44.1

出所：(一社)岩手県さけ・ます増殖協会

2 漁獲量減少の原因

- (1) 稚魚放流後の沿岸生活期における近年の海洋環境の変化等（国等の研究機関の指摘）
- (2) 台風第19号によるサケ捕獲施設、定置網等の被災による一時的な漁獲機能の喪失

3 課題、今後の対応（国の研究機関、水産関係団体、各ふ化場と連携して対応）

- (1) 今期の種卵の育成管理強化による健康な稚魚の生産・放流
 - ア 沿岸19ふ化場に対する飼育管理の巡回指導を強化
 - イ 稚魚生産における魚病の防除対策を強化
- (2) 今期のサケ不漁による漁業者や漁協の経営支援
 - ア 県漁業共済組合に対し共済金の早期支払いを要請
- (3) 来期の採卵計画を確実に達成できる種卵確保の体制強化
 - ア 河川そ上親魚に加え、定置網で漁獲したサケを親魚として活用
 - イ 地域別、ふ化場別の種卵不足の偏在を緩和するための需給調整
- (4) 将来の環境に適応した効率的なふ化放流事業に向けた稚魚生産・放流技術の高度化
 - ア 本県沿岸域における水温や餌料環境、稚魚の分布等の調査（稚魚放流後～沿岸生活期）
 - イ 広域的な幼稚魚の分布等の調査（北上回遊～北洋索餌期）
 - ウ 高水温に耐える稚魚の生産技術、「遊泳力」を指標とする健苗性の評価技術等の開発